

2012.10.29

「第 181 国会開会。嘘つきの所信表明は必要ない。」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は 10 月 29 日です。本日、181 回臨時国会が開会したのですが、これから先の見通しが全くついていません。参議院において、先の国会では野党の全会一致で、参議院として問責決議を可決しております。現在もこの問責は生きており、その意味は、参議院において野田総理を総理として認めない、という決議なのです。この決議が出た以上、法案は通りませんから、野田総理は解散して信を問う、もしくは内閣総辞職するしかないのです。

問責決議が出た後に民主党の代表選があったのですから、野田総理のままではこの二者択一の状況になることは目に見えていたはずですが。にもかかわらず、民主党は野田総理を代表として再任しましたから、どちらの選択をするかをはっきりさせなければなりません。しかし、どっちつかずの姿勢でずるずると野田政権を延命させているのが今の民主党なのです。

今日は皆様方に伝えたいことがあります。昨日の日曜日、地元のとある方の叙勲の祝賀会に出席しました折、驚くことができました。それは、民主党の山井和則議員がいらっしゃったのです。彼は民主党の衆議院国対委員長です。翌日から国会が始まるにも関わらず、地元の会合に出ているのを見て、私は「あなたはこんなところで何をしているのだ！この時期に地元にいるなんてあり

えない。明日からの国会運営はしっかりできているのか？」と言いました。ただでさえ、解散時期を巡って与野党対立は深まっており、出口は見えていません。この対立を解消し、正常な国会運営が出来るように努めるのは与党の国対委員長の最大の責務のはずです。しかし、その使命を忘れて地元に戻っているなんて、ありえないことです。

これが民主党の実態なのです。重要幹部、それも国対委員長の山井議員がこの体たらくですから、他の民主党議員も推して知るべしでしょう。まさに、民主党議員は当事者能力が欠如しているのです。自分の最大の責務を忘れて、地元の叙勲祝賀会にほいほい出て行って挨拶をする。これには私は開いた口がふさがりませんでした。

マスコミは参議院自民党が審議に応じない、政局がそんなに大事なのか、と書きたてるのです。しかし、それならば同時に民主党の体たらくもしっかりと書きとめて欲しいものです。与党の国対委員長が国会開会の前日に地元の会合で挨拶なんて例は古今東西ありません。国会をなめきっています。

今朝の新聞には、前原議員の政治資金団体が事務所活動の実態がないにもかかわらず、事務所費を計上していたことが明らかになりました。しかも平成16～22年は、民主党が野党として自民党の赤城、松岡両大臣を同様の問題で追及し、辞任までさせている時なのです。一体、民主党議員の方々は何を考えているのでしょうか。

我々参議院自民党は、問責決議を出した野田総理の所信表明は聞きませんし、質問も致しません。ただし、予算委員会を開き、今まで明らかとなった閣僚の問題と野田総理の任命責任は追及していかなければなりません。民主党内閣を一刻も早く打倒するために、全力で国会運営に当たっていきます。審議拒否も致しません。このことを是非、皆様方にご理解いただき、お力を貸して頂きたいと思います。本日も御覧になって頂きありがとうございました。